



箱号  
二

特別  
~13  
4382  
2









れりろく歌ふてとある中、小葉の葉と撰りてまば  
茶利の人の多し、形と氣味と白いと、いとまじりてさき先  
て秘するゆへ、がし御物の毒うに、先くわてし、はつて  
袋うに、何うの葉と、紙と名をと書つきて、それくれ  
来たるは、いさおまき、これに、がよかしく、おまうせて、は、先  
さし、その、が、び、さ、こ、り、入、こ、む、も、う、つ、お、し、り、く、の、く、所、  
を、席、茶、葉、子、ろ、藤、よ、の、濃、茶、う、と、茶、お、よ、し、  
う、ね、ら、う、その、た、れ、さ、く、こ、ま、よ、の、と、や、茶、よ、七、種、の、名、  
を、え、と、せ、り、  
森、若、井、字、下、奥、の、山、林、藤、の、初、日、翌、日、と、撰、也、  
又、け、う、活、川、み、か、り、と、い、は、し、江、の、柳、あ、ら、う、と、撰、也、  
ゆ、お、わ、く、回、上、藤、花、う、ん、と、ま、お、と、撰、也、  
ゆ、お、わ、く、回、上、藤、花、う、ん、と、ま、お、と、撰、也、

りて、は、つ、く、その、下、は、伏、見、れ、き、は、揚、ろ、と、流、川、の、川、ふ  
卯、月、の、と、名、は、け、う、と、あ、の、葉、の、あ、ら、う、と、え、あ、ぬ、奥、代、  
り、よ、と、あ、つ、と、余、心、の、あ、ら、う、と、一、條、大、あ、つ、と、い、う、  
と、し、り、う、と、あ、せ、お、ひ、あ、り、ゆ、く、ふ、活、茶、の、み、あ、一、粒、  
政、入、道、が、七、種、う、と、と、軍、と、あ、り、さ、海、と、撰、入、  
お、ま、の、教、子、あ、ら、う、と、ふ、川、の、お、ま、と、し、り、し、が、ら、と、あ、ら、ひ、  
を、ま、の、い、ろ、た、さ、あ、ら、ひ、う、と、ま、ら、し、な、く、と、大、よ、丸、う、り、て、  
う、舞、あ、ら、う、と、や、づ、り、ま、く、水、の、う、み、さ、と、あ、ら、て、  
う、く、と、と、け、と、ま、づ、と、撰、く、ま、し、つ、け、と、と、ま、ら、り、れ、  
し、り、と、あ、ら、う、と、し、り、ま、ら、り、よ、あ、ら、ふ、

○田奈防門は藤とあさあふらうすまきとやうひうの林の







くく免つてこり鹿とす事と仕つてとぬく業成  
りらゆましとやらど後よ、えらび被期うあり目とにをうりし  
クハせんふふにま乃と人うりめとるまねどくもさうき  
流りぬと乃らら押さよたらし他よれぬくゆらんと  
佛がら壇と清めらる目書上人乃病而清域乃更後種病  
事りこむとけまつつ勢借おつし色かきりうさ師弟子  
三人者とこりふ二時計は経うとるり今つや名跡たぐ  
為ゆらんとつとひとむかふ人ふかこつとたうと  
くあふよつと本日つとつとつとつとつとつとつとつとつと  
まばち人けつひとままつととととととととととととととと  
はさるくつげとととととととととととととととととととと  
はうとととととととととととととととととととととととと

ゆりかんたれどつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
乃長むうちやうちやう粒ふたば一まどあひうてうまよあつたつとん  
とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
てよびじく一よす念とつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
をもつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
を乃清利屋うかふとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
ゆつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
念仏とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
ハ糖がら乃まうとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
○田舎とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと







○平後方羽臣の家よりおぬとせせ房をのりて居  
とされは去氣にり腹にみまふやと小野師乃息と  
うを養治しりりこれ外養とてうと後方像  
子と臨そく実治いしてうりて御しあふ

○豆理石見守の殿は建物の徳大二のさうくあつて  
とゆくと石川某よりあつてしりりかほくおととま  
かきひてらひりたるはと

○豆理石見守の殿は建物の徳大二のさうくあつて  
とゆくと石川某よりあつてしりりかほくおととま  
かきひてらひりたるはと

とよ人を教と打とてまてまの仕舞あつて  
ゆは

○八月十八日の月入んとて廣はよりうらまは  
そのまうさほろく照くやまそまをうらう月  
しりりしとてまよ面白うとされ

○美徳園は合戦は打まを城郭つとては  
とされ

○今川修徳入るる後乃あつて玉川松とて  
とされ



つしわたりし後も秘蔵のちよき志ワけく夫事此彼とを  
治りしそ糸の肉一そ糸とよんきては事ありとこれ  
こまのまゝと移ししつふおちたらし多事とやうし先  
られ多し玉門のまら柳意朝ちと意物と治り治息  
う一首の予ととられそれと一はううんといし  
のうをううう一深ししそそ乃そり

牛あてあひいとやふそ意物ううすは袖あつたを  
しとそ乃一はう一葉トけくと作をたれは玉川  
第何のちう一う一ちうのわをせは袖ふと先とらうや  
歌乃乃ふは武ささあゆめれを屋ううとらうやう後  
られよりそゆううわうとる舞

○聖長川せうえうう一ゆくとらうふ大木乃皮と押ら  
つてかの字とまら字とがどくのうふとらうちうとら  
は字もわ

かましくよわつと火うう屋の巨乃里  
まのなまやちまひとあ一のまりとま  
いぬくよりあつとまん面うて喜とくあ

わまの乃わとまらちやあさるけ  
○屋下守晴之の家は杉坂角海とそお覚とま  
う侍わうト傳一派乃まはう名とゆくと門外れり  
らる紙世とらと萩回強く想とそ佳乃名人おを國よあり  
て予子とそはあ家れ中とそ小た刀と佳と乃務おと  
わそひ萩坂萩回が雌雄と史とそまよぬとら日とら先  
お中ふ出合と萩坂まら萩回のお覚乃知とそまんとお思



むん人とうりてのむらけり

いし一魚の聖者其まよわ福えあつえとらてわつておまへ

萩田五

まの山こたらさるるとみゆまえ一東風あては花やらくま

國中一ゆり多味事され晴久らと縁名乃すくと

名もは萩田ハ流りよゆりぬ

○牛匠大これゆたきよ毎年乃肉きよ眠つてた

又月又月よ一ふびきくやよじういて氣と吐きよを氣

とそふ天く下小海りてせとありぬとありと病とそふ

その此のつらふらして毒とそあり薬とせわらうと

まねとくや又月又日乃釣家れあうらるふ百ちよとら

て思掩りけし事よつる事あり百ちよとらハと殺百

ととつふいそれよあうど殺のゆがまさとれりやう百

いふりこまよあひ合とふう)獨牛乃目ふ薬玉と

百草とそりてとえ乃系よはあて者ふくまはそ乃

年乃夜とらふいあまきうとつふ事ハげあうと

又月玉ととむむり

○菅浦系種とそあふとんわふまよのちふくま

とらふとと薬玉と縁ととら

○鬼とつふ事ハ一人乃口あよありて羽又れ合物とら

とらと一とら冷くむとそあふとらよとそ毒乃あかん

死とらと世あはしとら大おとら人を毒乃おそれぬら

よらとそとつふものを先とそれまらとらやとそと

はあてとつふハ仔細物終るをらやひとらふらふ





王女

かりしと云々と云ふ事也又同一物語なりとも云  
 此きごとくうみまらハ女と云といひも平通也  
 漢奥州<sup>ウツノ</sup>の古歌<sup>ウツノ</sup>よむと云ふ事也  
 ともみしと云ふ事也  
 ○富小<sup>トヨコ</sup>ゆれぬ之除坊<sup>ノ</sup>のみあこころ全<sup>ツ</sup>福<sup>ク</sup>横<sup>コ</sup>としてゆり  
 びり物<sup>モノ</sup>移<sup>シ</sup>こころありそ乃れと云ふ事あり  
 衣<sup>ウ</sup>と云ふ事あり服<sup>ウ</sup>と云ふ事あり金<sup>カネ</sup>と云ふ事あり  
 福<sup>フク</sup>のありしと云ふ事ありかかろしと云ふ事あり  
 ぞしてと云ふ事あり世<sup>ヨ</sup>の何<sup>ナニ</sup>もあつと云ふ事あり  
 神<sup>カミ</sup>はよほありしと云ふ事あり  
 つとて少<sup>オホ</sup>く人<sup>ヒト</sup>どもと云ふ事あり



















むらうしぬりふき納しつと奇しき事なりくししと籠  
母もそそぬいめら枝よむとびあう風よめくハあふむ  
うんちふれなるねや去り海海とさうとそ

まよそそい志くゆらら此ちあ子花ん風やもんてちんか  
経書堂あくよりの

ゆふとあしぬらる清花結く雲うとととを免まき  
○那乃や山き野といふあり大梅の庵うくされうらと  
たりとゆりて見ふいとまま道いさうなりとふ奇よもてれ  
りしとさうと

ゆふとあしぬらる清花結く雲うとととを免まき  
乞ハ花乃あうと此色なりやとそ

そこの中なるあきとつる大梅のさきととめやいさゆ

とくもむまれむあうとてくをりくさくよさうとそよ  
びつとつ酒をと斬てととくあきつとそおいらあをり  
くもつとさうつまが又乃と花乃らあふくつとさ  
知く乃よつとされとあうと身まうらとさうといふと  
あんとさうとあうとてうとてとてとてとてとてと

まよそそい志くゆらら此ちあ子花ん風やもんてちんか  
○伊勢伊勢守の庵う伊勢梅乃ととさうとと笑みとさ  
とらと庵うかまきとととふたつとらあてとととなん

そそあし

神風とてそそ伊勢らとそあ乃とさうととあてととあ  
○あふ人の家う桐が谷乃梅あくらかまよととれとさハ  
好事此人あわくさうと録めらと録りて納はら中く



世伝ふいふよさうりやうらとて切きてたりいふら  
人々并にさうり門の戸をさうりつをゆるく

○花とんと入る人々と煙をわあからけらとさうり香  
湯積乃茶とらりて編らふものいふ入る門うら免

毛乃教とらりてあやうよあまらとさうり妖さうり  
うささうりあうりあうりつさうり花見よあうり秘めあうり

さうりあうり人乃よめあ  
梅はくこさあさうりあうりあまてさうり鼻毛はあうりさうり目

さうりあうりあうりてむよあうりつ酒のさうりあうり網とらり

あうりあうりあうりて網とらりあうりあうりあうり  
あうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり

さうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり

さうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり

さうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり

さうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり

さうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり

さうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり

さうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり















乃とらり初らるる初なるは葉野とありしとや海魚高

葉茂乃葉よりつら乃久ふさばよ老ふ年なり

久人たのむして久ふ葉葉しと記しけしと森

乃録り多し野としひさぐそ乃やさうふあふ人なり

乃とらり乃年なり

志免れゆとふ初らるる初葉久くとあううはをれはるる

そと古歌よのそけはとふあふと年なり

乃初と初らるる初葉久くとあううはをれはるる

乃中葉葉堂乃同魔王の記と録しとる初

乃あつとるあつと初葉とをいひまう今乃初やまらして

と年も老ふ年なり

乃野の地とて初なる初葉久くとあううはをれはるる

○乃と初らるる初葉久くとあううはをれはるる

その南より清和院とて清和とて清和とて清和とて清和と

この清和とて清和の院明子のとてあふととやあふ

古伝もとの初人ふさうと年なり

乃と初らるる初葉久くとあううはをれはるる

○異國の河東河とて河とて河とて河とて河と

くあり初らるる初葉久くとあううはをれはるる

乃中葉久らるる初葉久くとあううはをれはるる

乃の葉の初らるる初葉久くとあううはをれはるる

乃後朝に乃年なり

乃と初らるる初葉久くとあううはをれはるる

乃と初らるる初葉久くとあううはをれはるる



とよむるをば中川の事也

中川のほとりらうたはとてあまたうきまゆらうたの  
○京うららうらうの時西郊一もつらにりまらうたにわも  
乃東のこよまの思とてや山ありてよまの二葎の松あり  
をうのいほふ寛平は中を延喜帝れりなよれり  
まはとてうみまひたのうきあふまのうとてい思とて  
う勢られ

表秋のまの思れ奥の山のみらうたをなふる梅のお  
い思乃ありとらうたはよゆらありそらあふ本  
いふところありわらうたはなほなみまはれとてあ  
水あふ母と通とわらうたはよらうたはなほなみまはれとてあ



